

学生提案成果報告(2) ④

とちぎの森で地域活性化～平地林での音楽イベント・木工作品づくり～

宇都宮共和大学シティライフ学部 3 年 渡邊ゼミ 面川健太(おもかわけんた)

北原遥、川田恒輝、廣瀬太陽、片根大斗、佐藤雅哉、石戸泰誠、岡村光司、宇梶宏海、チュオンテイトイ、小平俊介

【概要】 私たちのゼミでは、壬生町上稲葉地区にある嘉陽が丘という平地林でサバイバルゲーム(戦闘ごっこ)やかくれんぼなどのイベントを開催している株式会社フォレストーリーと連携し、平地林を活用した音楽イベント・木工作品づくり体験のイベントを 12 月中旬に開催する予定である。イベントを開催することで、より多くの人にこの森のことを知っていただき、また地域の森の意義について考えてもらう機会とすることが目標である。

【栃木を元気にするには】株式会社フォレストーリーは、宇都宮発のベンチャー企業である。フォレストーリーは、全国の地域の林が未活用であり、それを保護しつつ利活用することで、地域に利益を還元することを目指している。私たちはフォレストーリーと連携し、平坦な地形で一定の空間がある平地林で音楽イベントを開催し、出演団体に発表の場を提供するとともに、木工作品づくりを通してとちぎの森の価値を認識してもらいたいと考えた。

1. 株式会社フォレストーリーとの連携

日本の国土は森林が 3 分の 2 を占めているものの、森林を所有・管理している山主(やまぬし)と呼ばれる方々の経済的な負担が大きいことが知られている。特に林業においては植林後の森林の育成期間中(約 30～50 年)に、木材販売による収入がないという課題があり、このことが山主への負担を増大させている。こうした日本の林業がかかえる課題に着目したのが、2020 年 12 月に設立された宇都宮発のベンチャー企業である株式会社フォレストーリーである。フォレストーリーは課題解決のため、山主を通じて森林を借り、森林を保護しながら山主に新たな収入をもたらすビジネスモデルを構築している。具体的には、山主が森林をフォレストーリーに貸し、フォレストーリーはお借りした森林をサバイバルゲームなどのイベントを開催する。その参加料を山主や地元自治体に還元するものである。実際に、壬生町や宇都宮市にある未活用の森林を借りてサバイバルゲーム(戦闘ごっこ)やかくれんぼなどのイベントを開催している。サバイバルゲームの愛好家は最近増えており、そのイベント開催はフォレストーリーの主力事業のひとつであるものの、参加者が限定的なレジャーであることが課題となっている。それゆえ、フォレストーリーでは、森林をより魅力的な場とし、森に好きになってもらうために、ツーリズム事業を進めていくことを検討されていた。

私たち渡邊ゼミは、観光を地域活性化にどう活かすか、地域と連携して実践的に研究している。2022 年 2 月に、ゼミの指導教員が宇都宮市産業政策課の会合に出席した際、株式会社フォレストーリーの方と偶然出会い、フォレストーリーの事業を知った。これを縁として私たちは、2022 年 4 月にフォレストーリーの方と大学でお会いし、フォレストーリーのコンセプトや事業の説明をお聞きした。私たちはこの出会いをきっかけとして、フォレストーリーとの連携によるイベントの開催と、栃木県の地域活性化また森林の利活用を結びつけられないか研究していくことを、本年度のテーマとした。

2. イベントの企画・準備の経過

4月にフォレストーリーの方とお会いした後、どのようなイベントにしたいかゼミで議論したところ、森林空間を大きなホールに見立てた音楽の演奏や合唱のコンサートを開催する案(以下、音楽イベントという)が浮上した。また、フォレストーリーの理念は森林の利活用による林業への貢献であることから、私たちのイベントでもその理念を反映させることが重要であると考えた。そこで、木に直接触れることで森の価値について知ってもらいたいという思いから、木材を活用した木工作品づくり体験を、音楽イベント中に同時開催することにした。そのうえでこの企画が実現できるか壬生町にある県内最大規模の平地林である嘉陽(かよう)が丘を 5 月 22 日にゼミ生で視

表1 本イベントに関する活動経過

時期	実施事項
2022年	4月 ・4/14 ゼミでフォレストーリーより事業説明
	5月 ・5/22 ゼミで嘉陽が丘を視察
	6月 ・6/2 企画原案(開催日, 実施内容)の決定 ・6/9 フォレストーリーに正式に連携依頼 ・6/20 栃木県「大学地域連携活動支援事業」採択通知
	7月 ・7/31 嘉陽が丘内の神社管理者と学生との打合せ
	8月 ・県内高校吹奏楽部, 県内合唱団・吹奏楽団等への出演依頼 ・8/20 スウェーデントーチの製作作業
	9月 ・9/22 出演者不足のため、開催日を12月17日に延期
	10月 ・再度出演依頼をするとともに、準備作業を進めていく。
	11月
	12月 ・12/17イベント開催予定

察し、森林の規模や周辺的环境、イベントが開催できそうなスペース、電源の位置や駐車可能なスペースなどを確認した(写真 1)。6 月になり、イベント開催日を 10 月 9 日とし、また地域の方や音楽イベントの出演者を観客とすることにした。そして、フォレストーリーの方を通じて山主の方からイベント開催の許可をいただくことができた。また、開催資金については栃木県の大学地域連携活動支援事業に 6 月下旬に採択されたことで、確保することができた。

音楽イベントは、コロナ禍になって練習の成果を発表する機会が少なくなっている背景から、栃木県内で活動している吹奏楽、軽音楽、また合唱の団体や学校の部活動に出演を依頼することにした。8 月になり、4 つの団体や学校に出演を依頼したものの、開催予定日が 3 連休中であったことや出演の打診時期が開催 2 か月前と遅かったこともあり、別のイベントに出演するなどの理由で出演できない団体が多かった。そのため、私たちは自らの準備不足を反省するとともに、出演者の予定をふまえて開催日程を再検討し、12 月 17 日(土)13~16 時に実施することにした。

音楽イベントと同時に開催する木工作品づくり体験では、音楽イベントの雰囲気をつくるため、スウェーデントーチ(丸太型のたいまつ)の設置と、実際に木に触れてもらうことをねらいに、杉板焼体験を行うことにした。スウェーデントーチをつくるには、丸太にチェーンソーで切り込みを入れる必要があるものの、私たちはチェーンソーを扱う技術がないため、フォレストーリーの木こりの方に依頼して制作していただいた(写真 2)。なお、丸太は嘉陽が丘で不要となった木材を活用した。杉板は県内の木材加工会社より調達した。

嘉陽が丘でのイベントの実施にあたって大きな課題となったのは、電源の確保である。嘉陽が丘に隣接する壬生町の施設から電気を確保することも検討したものの、距離があることから断念した。そこで発電機、持ち運び可能な電源(ポータブルバッテリー)、電源出力可能な電気自動車を利用することにした。他にも仮設トイレの設置や、周辺にコンビニ等がないことからキッチンカーの出店依頼、現地への輸送手段の確保なども進めている。

3. イベント開催に向けて

当初は 10 月 9 日に開催予定であったが、12 月に延期したため、残念ながら学生&企業研究発表会でイベント開催の成果を報告することはかなわない。しかしながら、様々な方のご協力を得ていることから、準備作業を進め、開催にこぎつけられるように頑張ってまいりたい。



写真 1 嘉陽が丘視察(5月)



写真 2 木こりの方にスウェーデントーチ用の木材の切り方を説明する様子(8月)